

授業コード	JP31020021	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	法哲学		
英語科目授業名	Philosophy of Law		
科目ナンバー		必修・選択	選択必修
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名 (代表含む)	早川 のぞみ		
科目の主題	<p>法哲学は、主に「法の一般理論」・「法解釈論」・「正義論」という3つの問題領域を扱う。第一に、法の基本的特質や法体系の構造、権利の概念など、「法とは何か」を明らかにする（「法の一般理論」）。第二に、裁判官はどのような仕方での法的判断を下すのか、法の解釈および適用の方法と構造について分析する（「法解釈論」）。第三に、自由や平等など、法の実現すべき目的とは何かを理論的に探究する（「正義論」）。現実の裁判で解決の困難な事件が起きたとき、どのように法的に正しい判断を導くのだろうか。法をいかに解釈すべきかという解釈の問題は、その根底において、法の目的は何か、そして、法規範とはどのような規範的性質を有するのか、といった法哲学の理論的な基礎づけにも起因していると思われる。</p> <p>講義では、20世紀を代表する法哲学者たち—H.ケルゼン、H.L.A.ハート、R.ドゥオーキンなど—を取り上げながら、それぞれの法理論の全体像の特徴と相違を学んでいく。この授業を通して、受講生のみなさんに、より合理的な法理論・法解釈論とはどのようなものかについて、じっくりと考えてもらいたいと思う。</p>		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・法哲学の基本用語（法概念、法実証主義と自然法論、正義論、法的三段論法など）を説明できる。 ・授業で取り上げる法哲学者たちの法理論の内容や違いを理解した上で、説明できる。 ・解決困難な具体的事例について、受講者自身が合理的と考える法理論に立ち返りながら、法的に判断する能力を修得する。 		
授業内容・ 授業計画①	<p>1 法哲学の問題領域 法哲学の3つの問題領域について概説する。具体的なハード・ケースをいくつか取り上げて、裁判官の間で法解釈がどのように分かれるのかを分析し、なぜそれらの解釈が分れるのか？解釈の正しい方法とは何かといった法解釈をめぐる根本的な問題について整理する。</p> <p>2 具体的事例から考える（1） 悪法問題が問われる裁判事例を取り上げ、「悪法は法か？」という問題をめぐる見解の対立を読み解いていく。</p> <p>3 具体的事例から考える（2） 前回に続き、悪法問題の根本にある「法とは何か」という問題について—自然法論と法実証主義の対立—について検討する。</p> <p>4 伝統的自然法論と古典的法実証主義 法思想史的な視点から、伝統的自然法論とイギリスの古典的法実証主義の流れをそれぞれ追う。</p> <p>5 現代法理論の展開（1） H.ケルゼンの法実証主義の全体像について学ぶ。教科書「第1章 20世紀法理論の出発点—ケルゼンの純粋法学—」を扱う。</p> <p>6 現代法理論の展開（2） H.L.A.ハートの法実証主義の全体像について学ぶ。教科書「第2章 法理論における言語論的転回—ハートの『法概念』—」を扱う。</p> <p>7 現代法理論の展開（3） 前回に続き、H.L.A.ハートの法理論を扱う。ここでは、ハート・デヴウリン論争を取り上げ、実定法によって法を防御しようとする法実証主義的な見方について検討する。教科書「補論 ハート理論における「法と道徳」」を扱う。</p> <p>8 現代法理論の展開（4） R.ドゥオーキンの法理論の全体像について学ぶ。教科書「第3章 解釈的实践としての法—ドゥオーキンの解釈的アプローチ—」を扱う。</p> <p>9 現代法理論の展開（5） ポストモダンの法理論について学ぶ。教科書「第4章 ポストモダン法学—批判法学とシステム理論—」を扱う。</p> <p>10 法の目的と正義（1） 法の目的と正義の関係について概説する。また、現代正義論の大まかな見取り図を整理する。功利主義の正義と権利論①（J.ロールズの正義論）を取り上げる。</p> <p>11 法の目的と正義（2） 前回に続き、権利論②（リバタリアニズム）とコミュニタリアニズムの正義論を取り上げる。</p>		

授業内容・ 授業計画②	<p>12 法解釈論（1） 法的思考について（法命題の基本構造，具体事例への法の適用方式である法律学的三段論法，大前提・小前提の作成など）について概説する。また，制定法主義と判例法主義を取り上げ，それぞれの法的思考様式の違いについて検討する。</p> <p>13 法解釈（2） 解釈の手段，制定法の解釈の目的（立法者意思説と法律意思説）について概説する。また，アメリカ合衆国を中心に法解釈方法論の理論展開について紹介する。</p> <p>14 総括 最後に，授業全体の総括として，アメリカ合衆国における人工妊娠中絶事件（いわゆるロー判決）を取り上げて，裁判官たち，法哲学者たちが，このケースをどのように解釈するかを分析し，それぞれの寄って立つ法理論的な立場との結びつきについて考察する。</p> <p>15 期末試験</p>
事前・事後学習 の内容	毎週，教科書の指定した箇所，あるいは，事前に指定する資料を読んで授業に参加すること。また，授業後の復習としては，授業で取り上げた内容についての参考文献等を読みながら，その内容理解を深めること。
評価方法	絶対評価 期末試験 90%，平常点（講義における質疑応答および議論への参加状況）10%
受講生へのコメント	法哲学という固いイメージがあるかもしれませんが，く具体的な裁判事例など馴染みやすい素材をできるだけ多く取り入れながら，進めていきたいと思ひます。また，講義では，質疑応答および議論を自由・活発にできるような環境も心がけていきたいと思ひます。
教材	<p>【教科書】 中山竜一『二十世紀の法思想』（岩波書店，2000年）</p> <p>【参考書】 法哲学全体を概説するものとして： ・田中成明『現代法理学』（有斐閣，2011年） ・平野仁彦，亀本洋，服部高宏『法哲学』（有斐閣，2002年） 法解釈論に焦点を当てるものとして： ・青井秀夫『法理学概説』（有斐閣，2007年） その他の参考書については，初回の授業で紹介する。</p> <p>【その他】 授業の進行のためにレジユメを配布します。また，授業で取り上げる資料については，適宜，紹介または配布する。</p>